

# 校長室から

校長室だより 第2号  
令和3(2021)年4月16日発行  
文責 宮城県宮城野高等学校  
校長 佐藤 誠



生徒が登校を開始してから1週間が経過して、新入生のオリエンテーションも一段落し、1年から3年まで各年次で授業が始まっています(ちなみに、本校は単位制の高校であるため、「学年」の名称を使わず「年次」といいます)。校長室の窓からは、天気の良い中、天然芝が張られた本校グラウンドで行っている体育の授業の様子も見えます。参加する生徒の服装はまちまちで、制服も指定ジャージもない本校ならではの風景だと思いますが、生徒諸君はそれぞれ元気に体を動かして気持ち良さそうです。

先日「校長室だより」第1号を発行し、入学式「式辞」を掲載しましたが、当日いただいた永見幸久PTA会長からの祝辞メッセージがとても素敵な内容だったので、在校生とご家族にもぜひお伝えしたいと思い、この第2号に掲載させていただくことにしました。一読いただきたいと思います。

## 令和3年度入学式 祝辞

宮城野高等学校PTAを代表いたしまして一言お祝い申し上げます。まずは本日入学式を迎えられた274名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

中学校の制服とは異なり、各自真新しいスーツ等に身を包み、多少の緊張もあったでしょうが、きっと晴れがましい気持ちで桜の風薫る中を登校されたことと思います。私も50年程前、最近ではほとんど見かけなくなった詰襟の学生服に袖を通し、少し大人に近づいた気持ちで入学式に臨んだことが思い出されます。

ところで皆さん、奈良時代の昔から江戸時代に至るまで、成人になる儀式で「元服」という儀式があったのをご存知でしょうか? 時代や地域によって多少の違いはありましたが、概ね11歳から16歳の間だったと言われています。

皆さんは伊達政宗を良くご存知だと思いますが、何歳で元服したかご存知ですか? この時代、元服は14・5歳が一般的だったにも関わらず、何と11歳にして元服し、梵天丸からその名を伊達藤次郎政宗としました。いろいろと事情はあったようですが、梵天丸少年は僅か11歳で大人の世界に引きずり込まれた訳です。

伊達政宗といえば、三日月のような立物の付いた兜が有名です。先日の地震で先端が折れてしまったようですが、つい数日前修復が完了したとニュースが伝えておりました。この政宗の兜の立物は三日月を表しています。事の真偽は定かではありませんが、最初は三日月のように小さくてもいずれは満月のようにすべてを満たせる自分になりたい!という「志」があったという説があります。

皆さんの卒業した中学校でも、元服に因んで14歳・中学2年で志を立てる、所謂、立志式を行っている学校もあるようです。

「志」とは何でしょうか? 一言で言えば「目標」です。目標に到達しようとする信念と努力です。それでは「目標」を立てるためには何が必要でしょうか? 私は「夢」だと思います。夢を持つことです。ですので、皆さんは是非これからの3年間で、宮城野高校で様々な経験を通して、いろいろな「夢」を描いて欲しいと思います。

先日またまたテレビで見ていたバラエティで、俳優の大泉洋さんが小3の娘さんから何の努力もしていないで仕事をしている...と言われて気づいたそうです。娘には私が仕事をするのに努力していないように見えただなど。娘には「努力と思わないくらい好きなことを見つけなさい」と返すべきだった...と語っていました。

大泉さんのように、努力と思わないくらい好きなことを見つけることが「夢の実現」なのかもしれません。その「夢のさらなる追求」を職業にできる人はさらに幸せだと思います。

是非この3年間で「努力と思わないくらい好きなこと」を見つけてください。思い切り「夢」を描いてください。

さて、新入生ご父兄の皆様、本日はお子様方のご入学、誠にありがとうございます。

今更言うまでもありませんが、子ども達の教育は、学校のみで行うものではありません。家庭と学校の連携によって支えていくものです。私達は、その一翼を担っております。是非、ご家庭でのご指導は勿論ですが、PTA活動へのご理解をお願い申し上げますと共に、積極的なご参画、まずは年次委員へのご登録をお願い申し上げます。

最後になりましたが、校長先生はじめ諸先生方、生徒達をよろしくお導きくださいますようお願い申し上げます。お祝いの言葉に代えさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。

令和3年4月8日

宮城県宮城野高等学校PTA会長 永見 幸久

あらためて生徒諸君には、「志」、「目標」、そして「夢」について、考えてみて欲しいと思います。

さて、4月8日午前の新任式・始業式は各教室での生徒参加とし、2・3年次生は各教室でZoomを利用した大講義室からの映像と放送の形で実施しました。今年度も多くの先生方を新しくお迎えし、私からそれぞれの先生方のお名前と教科、そして昨年度所属先等を生徒諸君に紹介しました。なかなか映像だけでは伝わらない部分もあるかとは思いますが、これから授業等をとおして名前と顔を覚えていって欲しいと思います。

裏面に続きますが、始業式でお話しした式辞も掲載したいと思います。あらためて一読ください。

## 令和3年度始業式 式辞

改めまして、皆さんおはようございます。校長佐藤誠です。

先程も少しお話ししましたが、人事異動で私が宮城野高校の校長として赴任することが決まって以来、教頭として勤務していた平成27・28年度の2年間の出来事を、事ある毎に思い返していました。記憶に残る最初の場面は、今日と同じ新任式です。体育館に整列した生徒諸君の服装が自由服なのはいいとして、髪の毛が赤・緑・白、そして金や銀など、一部の生徒ではあっても実にカラフルで、“これが宮城野高校なのか！”と思った記憶があります。

しかし、それは世間の多くが誤解しているのと同様に、外面的な意味での自由、外見的な特殊性だけを基準に判断している個性的という感覚に過ぎず、宮城野高校の生徒諸君が体现している自由とはまったく別ものであることに、後から気づくことができました。今も宮城野高校における学校生活のキーワードである「自由」と「個性」については、生徒の皆さんも常に意識して考えながら生活して欲しいと思います。

さてここで、生徒の皆さんにお願いがあります。それぞれの高校には、校風や伝統と呼ばれるものがあります。本校も、開校25周年が経過し、その中で、在学した多くの先輩たちや先生方によって、“宮城野高校のやり方”と呼べるもの、いわゆる校風や伝統に近いものが作られてきました。たとえば、生徒企画の体育的行事や文化的行事、そして運営に当たる生徒ボランティア、生徒自治会ZERO、など、他にもたくさんあります。教頭として勤めた時の記憶で、5月の体育祭を、200名を超える体育祭ボランティア(体ボラ)の生徒諸君たちが企画から運営まで担当し、学校中が大いに盛り上がっていた様子が鮮明に思い出されます。中でも、競技の勝敗はそっこのけで、衣装とコスプレに命をかけていた美術科の生徒が印象的でした。

しかし昨年度1年間、学校の中で予定した様々な行事が縮小したり実施できなくなり、今までのやり方から大きく変わってしまったものが多いと思います。もし、今年度も昨年度と同じよ

うに様々な行事や企画が実施できなくなったりすると、25年間で積み上げてきた“宮城野高校のやり方”が消滅してしまうかもしれないという、ある意味危機感を私は持っています。

決して、今までのやり方をそのまま踏襲して欲しいと言っているわけではありません。今までの蓄積と成果を踏まえて、さらにより良いものに作り上げるためにも、ぜひ今年は、1年次の時の記憶と経験を持つ今年の3年次の生徒の皆さんに、これまでの25年間とこれからの25年間をつなぐ役割を果たして欲しいと考えています。そして、2年次の皆さんには、さらに次年度以降につながるように、3年次の皆さんと一緒に様々な活動に取り組んで欲しいと考えているのです。

次に、学校が取り組んでいる今とこれからについてお話しします。昨年度創立25周年記念式典を実施しましたが、学校として大きな区切りととらえ、さらに新しい学習指導要領がスタートするのに合わせ、今まで宮城野高校が行ってきた教育活動を総括し、成果の継承とさらなる発展を目指すべく、現在学校改革を検討しています。

特に、今までの「総合的な学習の時間」が、新学習指導要領では「総合的な探究の時間」と名称が変わり、かつすべての生徒が取り組むべき内容に拡大されたことを受け、本校が力を入れてきた課題研究・探究活動も、総合学科で重点的に取り組んできたものを、今年度入学生から全学科に拡大し再編成して実施することを計画しています。

2年次・3年次の生徒の皆さんは、基本的に、今までの課題研究・探究活動の流れを継続して取り組んでもらうこととなりますが、新入生は少し違う流れになることを知っておいていただきたいと思います。

では、いよいよ新年度がスタートします。コロナの感染はまだまだ収まりそうにありませんが、その中でも、充実した学校生活を送れるよう、感染予防には十分に注意を払い、過ごして欲しいと思います。

以上、令和3年度のスタートに当たり、始業式の式辞いたします。

校長 佐藤 誠

「花木散歩その2」です。天気の良い日には、実際にそれぞれの花を見に行ってみてくださいね。

## 学校花木散歩 その2 「サクラ」 ～25周年記念植樹木も紹介します～

本校の敷地内には桜の木がほとんどない。以前勤務した時の記憶をたどると、体育館脇にシダレザクラの木が1本だけ植えてあったはずだ。ソメイヨシノとは開花の時期が少しずれるので、4月の中頃から後半にかけて、まさしくちょうど今頃が花の見頃だというイメージでいたが、今年は春の訪れが早く気温が高かったので、本校のシダレザクラの木もすでに散り始めていて残っている花は2割ほどになってしまっている。桜の花が散っていく様子は本数に関わらず寂しげだと思う。でも替わりに、シダレザクラの下には、鮮やかな青紫色の「ムスカリ」やうす水色の「ハナニラ」や「チューリップ」がたくさんの花を咲かせていて、寂しさを補っているようにも感じる。

探してもらった校舎建設当時の植栽図面を見ると、やはり、桜の木は1本だけしか植えなかったようだ。そのあたりのコンセプトは開校当時を知る方に聞いてみたいが、できるだけ多種の植栽を目指したのかも知れない。

4月に赴任してから、昨年10月に本校創立25周年記念事業として植樹を行い、その中に桜の木があると聞いた。植樹したのは、「陽光桜」「オカメ桜」「ジュンベリー」「アジサイ・アナベル」の4種類で、そのうち「陽光桜」と「ジュンベリー」は保健室前に植えられ、今は黄色と紫のパンジーの花がその場所の目印となっている。「オカメ桜」は校門の外に向かって右側の植え込みの陰に植えられている。以上の三種は、記念事業と植物名を記載したプレートがついている。最後の「アジサイ・アナベル」は、昇降口前の大きなタブノキのサークルの中に外側を取り巻くように6本植えてあるのだが、プレートがない。ぜひプレートをつけたいと思う。いずれの木も、まだまだ力強く花を咲かせるほどではないが、いずれ学校を彩る立派な木に成長してくれることを期待したい。